

## 2013 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[ 多摩市立東愛宕中学校 ] 担当教諭名[ 大塚 雄史 ] ( 美術部 8名 )

交流相手国[ キルギス ]

海外学校名[ Humanitarian Lyceum ] 担当教諭名[ Builiasheva Aksalkyn / 石川 敦子(JICA) ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教 科	単 元 名	時間数
	クラブ活動	国際理解	25

### ■作品について教えてください。

題 (テーマ)	キルギスの空と日本の空はつながっている。
絵に込めたメッセージ	交流も二年目に入り、より二つの国のつながりを意識するために、画面を二つに分割しない構図を考えた。世界を覆う大きな空に雲を描き、その中にそれぞれの文化を描き、それぞれの国の文化を紹介しあっている。
	

### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「画面を二つに分割したことで、二つの国に隔たりがある印象になった。」という昨年度の壁画における課題について、取り組むことができた。</li> <li>・生徒が自主的に調べ学習に取り組み、テーマの設定を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ会議の日程調整が出来ず、実施できなかった。このことで昨年度より深く交流をすることができなかった。</li> <li>・小規模の学校のため、参加している生徒が他の学校行事や委員会活動にも関わっているため、生徒が集中して調べ学習や制作に関わる時間が少なかった。</li> </ul>

### ■アートマイルの活動を周りにお知らせしましたか？ 周りの反響はどうでしたか？

担当教諭や子どもたちによる広報	校内・保護者や地域の方からの反響
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーラムに送られてきた写真や説明をプリントアウトして廊下に掲示した。</li> <li>・多摩市公立学校作品展に今年の取り組みを写真と文章で紹介した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートマイル参加も三年目に入り、本校での取り組みを保護者や地域の方も理解してくれています。PTAの広報誌にも記事を載せてくれています。</li> </ul>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
導入	7月 ～ 9月	・日本とキルギスについての調べ学習 ・フォーラムでの自己紹介	・日本語を学ぶキルギスの生徒に対して、よりわかりやすい日本語を使用しようという意識が出てきた。	部活動
情報収集	9月 ～ 10月	・テーマを提案 ・構図の検討	昨年度の反省点である完成作品の印象が二つに分かれてしまうことを避けるために、様々なアイデアを出し合うことができた。	部活動
テーマ検討	11月	・テーマの案をフォーラムで提示 ・構図について、アイデアスケッチをフォーラムに載せ、意見交換をおこなった。	構図のアイデアを基に意見交換を行った結果、空の色について双方の意見が異なった。修正案や色彩に対する考えを再度提案して、共通理解を図ることができた。	部活動
制作	12月 ～ 1月	・壁画制作 ・日本側の制作 ・完成作品に同梱するカードや贈り物の準備	定期考査や学校行事などで制作できない時期があり、制作が遅れたが、冬休みなども自主的に制作して、作品を完成させることができた。また、制作の分担などの調整をすることができた。	部活動
鑑賞	4月	・テレビ会議による完成作品の鑑賞	キルギスで作品の展示をしたいとの申し出があり、予定を調整して4月にテレビ会議を実施する予定。	部活動

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	4	日本の文化に対して興味をもつことはできたが、まだまだ、興味を示すものに偏りがあり、より深く理解させるまでに至らない点があった。
異文化の理解	C	2	情報を発信することに重点を置いたため、異文化理解まで関心を高めることが不十分であった。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	5	相手のことを考えて、簡単な説明に考えなおしたり、簡単な日本語に直したりするように変化していった。
情報活用能力 (情報収集・発信)	A	5	テーマの設定や資料収集に生徒が積極的に取り組むようになった。また、収集した資料について、意見を交わす場面が増えた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	5	限られた時間を有効に使うために、調べ学習を分担したり、制作の分担を話しあったりしていた。交流相手との人間関係をつくる点では、テレビ会議を実施することができず、モチベーションを高めることができなかった。
協働する力 (役割分担・協力)	B	5	調べ学習から制作まで、生徒が主体的に話し合い、皆で協力しながら制作を行うことができた。
学習を追究する意欲	B	4	日本の文化に対する興味や関心に偏りがあり、アニメなどの影響が強かった。もう少し幅広く関心をもつように指導する必要があった。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	5	昨年度に制作した作品と比較させると、構図や描写力に大きな進歩が見られた。
作品を鑑賞する力	A	—	日本側の制作が終わった段階で、振り返りを行った。昨年度の作品との比較させることで、自分たちのテーマ設定や表現力が大きく進歩したことに驚いていた。